

かや ほなみ  
茅の穂波

秋になると、フレントリ館の窓からは、群生する茅の穂が風にゆれるさまを見ることができます。来館者からは「ススキがきれい」と言われますが、見えている穂並のほとんどはオギという植物で、ススキはまばらな混在者にすぎません。



漢字で荻。荻原・荻野・荻島・荻窪など、地名や人名ではめずらしくありませんが、植物のオギは知名度が低いようです。外見上はススキとそっくりですが、株立ちしない点が大きな違いです。地下茎が水平に長くのびて、10cm 程度の間隔で芽を出すので、各茎がすき間を保ちながら鉛直に立ち上がり、広い群落をつくります。また、生育場所も分かれています。ススキは湿気に弱く、オギは乾燥に弱いので、水際に生えていればオギと思って間違いはないでしょう。

知和沼沢地のオギ群落では、昨年从小鳥の標識調査がおこなわれています。調査の時期は春と秋で、その目的は、旅鳥の通過を確認することです。

北日本で繁殖する渡り鳥は、西日本では春と秋に通過していただくだけの旅鳥ですが、その中には、ヨシやオギなど、草丈の高い植物群落の中をくぐり抜けながら旅をするものがあります。姿を見せず、また、旅の途中では声も出さないため、捕獲するしか確かめようがありません。オギ群落の中にかすみ網を張ることにより、これまでシマセンニュウやノゴマなど、数種類の旅鳥が確認されています。

ススキをはじめヨシやオギなど、茅と総称される植物の群落は、カヤネズミなどの動物に定住環境を与えるだけでなく、旅鳥たちの重要な通路にもなっているのです。